

数学科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

☐ ア 知識及び技能	☒ イ 思考力、判断力、表現力等
基礎・基本的な知識を習得し、それを使って計算することができる力	問題の特徴や本質を捉え、それを解決するために思考する力

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・定期考査や単元テスト、小テストにおいて、小数や分数を含む計算や、四則混合の複雑な計算において課題が見られた。 ☐ ア ・授業で学習した内容を活用しながら、課題解決する力を伸ばす必要がある。 ☐ イ	・日々の授業で、問題演習の時間を設ける。また、学びの軌跡(振り返りシート)を活用し、自己の課題や発展的な学習内容などを追及し探究する活動を取り入れる。 ・課題解決型の問題を提示し、話し合いなどを中心とした授業を展開する。	・小单元ごとに小テストを行い、毎時間の最後5分は、学びの軌跡の取り組み時間とする。 ・単元末に課題解決型問題を提示する。	学びの軌跡(振り返りシート)を充実させることで、数学への興味関心や勉強への意欲が高まり、定期考査などの得点が向上した。
第2学年	・定期考査において、複雑な計算をする設問の正答率が低い結果となった。 ☐ ア ・授業で学習した内容を活用しながら課題解決をする力を伸ばす必要がある。 ☐ イ	・日々の授業で、問題演習の時間を設ける。 また、学びの軌跡(振り返りシート)などを有効活用する。 ・課題解決型の問題を提示し、対話などを中心とした、授業を展開する	・小テストは2週に1回程度。 ・各単元終了時に単元のまとめテストを実施。	基本的な計算を繰り返し行うことで、定期考査において、知識技能の得点が向上した。
第3学年	・定期考査において、複雑な計算をする設問の正答率が低い結果であった。 ☐ ア ・授業で学習した内容を活用しながら課題解決をすることを苦手とする生徒が多い。思考力・判断力・表現力向上を目指して、継続して取り組む必要がある。 ☐ イ	・日々の授業で、問題演習の時間を設ける。また、ロイロノートなどを振り返りなどに有効活用する。 ・課題解決型の問題を提示し、自己内対話を中心とした、対話的な授業を展開する。	・小テストは小单元ごとに実施し、単元テストも実施し単元ごとの理解度も計る。	レポート等を通して、数学的な思考力が育まれ、苦手だった思考・判断・表現の観点の得点が向上した。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

- 1年 電子黒板を活用し、多角的に考え、学びを深める。
【重点：協働】
- 2年 タブレット端末を用いて、他者の意見を共有することで、学びを深める【重点：個別】
- 3年 ロイロノートを活用することで、他者の意見を共有し、学びを深める【重点：個別】

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

- ・毎時間の授業で最初に提示する「本時の目標」が達成できたかどうかを振り返る。また、次の授業内容の予告を行う。

